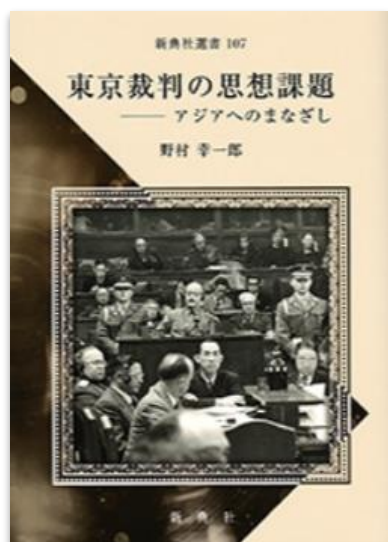


## 2021年度 出版助成図書



### 『東京裁判の思想課題—アジアへのまなざし』

野村 幸一郎 著

株式会社新典社（2021年12月8日発行）

B6判／272頁

ISBN9784787968579

¥2,200（税込）

#### <目次>

序 保田與重郎の東京裁判批判—問題の所在

#### I 徳富蘇峰の「国民」観念—明治維新と昭和の戦争

はじめに

満州事変への関心

「八紘為宇」の行方

天皇制とアジア主義

#### II 松井石根の大亜細亜主義—「同胞」と「皇国民」

はじめに

松井石根と東京裁判

満州事変以前における松井の中国分析

満州事変の世界史的立場

宇都宮太郎と松井石根

満州事変から日支事変へ

「亜細亜的精神」の問題圏

南京事件

#### III 大川周明の「三国意識」—アジアの解放と文化主義

はじめに

東条英機宛書簡をめぐる応答

維新の精神

アジアとの連帯

イスラム教への傾斜

#### IV 竹山道雄のファシズム論—近代文明の光と影

はじめに

「文明」の裁きへの疑念

ハイド氏のファシズム

竹山の反戦平和思想

#### V 堀田善衛と南京事件—『時間』における歴史と実存の往還

はじめに

東京裁判との交錯

マギー証言との距離

反美学としての『時間』

歴史と実存

アンガージュの輻輳性

#### VI 阿川弘之が語る開戦への道程—『米内光政』と東京裁判史観の死角

はじめに

米内光政の中国認識

日支事変への道程

米内の開戦責任

三国同盟

海軍の功利主義

あとがき—坂口安吾のまなざし



## 『日本のゼミナール教育』

人文・社会科学領域等の学士課程教育における学習共同体の姿』

西野 毅朗 著

玉川大学出版部（2022年2月28日発行）

A5判／324頁

ISBN 9784472406188

¥4,400（税込）

### <目次>

序章 なぜゼミナール教育に注目するのか

第1部 ゼミナール教育の発展過程—歴史的アプローチ

第1章 戦前期のゼミナール教育

第2章 戦後期のゼミナール教育

第2部 ゼミナール教育の現状と課題—量的アプローチ

第3章 教員視点で捉えるゼミナール教育

第4章 学生視点で捉えるゼミナール教育

第3部 ゼミナール教育のエスノグラフィー—質的アプローチ

第5章 エスノグラフィーの方法論と対象

第6章 専門ゼミナールへの導入過程—2年次演習

第7章 困難な課題への挑戦—3年次演習①

第8章 関係性の変化と影響—3年次演習②

第9章 就職活動と卒業研究と社会人生活—4年次演習

補章 遠隔ゼミナール教育の姿

終章 ゼミナール教育の過去・現在・未来

資料編